

海外安全対策情報（平成30年度第3四半期）

1 自然災害

（1）ロンボク島における地震

2018年12月上旬、マタラム市近郊においてM5.7の地震が発生しました。同年7月以降、同島周辺では地震が断続的に発生しています。引き続き安全の確保と情報収集に努めてください。

（2）アグン山

2018年12月下旬に小規模な噴火が続けて発生しました。周辺地域では少量の降灰が確認されましたが当地発着の航空便への影響はありませんでした。なお、噴火警戒レベルはレベル3（警戒）が継続されています。引き続き安全の確保と情報収集に努めてください。

2 社会・治安情勢

（1）テロ関連動向（インドネシア国内情勢）

2018年8月及び10月にジャカルタ等でアジア競技大会及びアジアパラ競技大会が開催されたほか、バリではIMF・世銀年次総会が開催されましたが、当該行事に絡む大きなテロ関連事案の発生はありませんでした。しかしながら、治安当局は、インドネシア国内各地でテロ容疑者を検挙する等テロの疑いがある動きに対して、引き続き厳重な警戒態勢を敷いています。当館管轄内における具体的な脅威情報はありませんが、引き続き最新の治安情勢等の関連情報を入手し、日頃から危機管理意識を高く持つよう努め、特にテロの標的となりやすい場所（政府・警察関係施設、宗教関連施設、ナイトクラブなど多くの欧米人が集まる場所、ショッピングモール等不特定多数が集まる場所等）を訪れる際には、周囲の状況に注意を払ってください。万一不審な人物や状況を察知した場合には速やかにその場を離れる等、安全確保に十分注意を払ってください。

（2）大雨・強風・高波に警戒

2018年10月にかけて、当地気象庁から大雨・強風・高波の警報が発出されました。特に雨季には海や山でのレジャーの際には天候の急変等に十分注意してください。

（3）デング熱

当地では一般的に雨季に入るとデング熱の罹患者が増えると言われておりますが、当地保健当局の統計によると9月以降デング熱の発症が増加傾向にあり今後注意が必要です。デング熱には予防接種も予防薬もありませんので、防蚊対策を徹底し感染の予防に努めてください。なお、仮にデング熱が疑われる症状が発生した場合には、早期に医療機関を受診し、適切な治療を受けるようにしてください。

（4）狂犬病

当地では、2018年7月以降ギアニャール県及びバンリ県において狂犬病ウイルスを持った野犬に咬まれる事案が発生していますが、同年10月以降もクルンクン県、ブレレン県、カランアッサム県等において同様の事案が発生しています。徒歩で移動する場合は野犬等の動物に十分注意し、万一咬まれた場合には、傷口を石鹼と水でよく洗い流し、速やかに医療機関を受診し、ワクチン接種等の治療を受けてください。

(5) 麻薬・薬物への注意

バリ州各地において、インドネシア人、外国人を問わず麻薬・薬物関連の逮捕事案が続いています。治安当局は薬物犯罪に対し厳しい姿勢で臨んでおり、当地裁判所も外国人に対しても死刑を含む重い判決を下しています。麻薬・薬物には絶対に参与しないようにしてください。

3 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 犯罪傾向

○ 2018年に入り、空港等においてアラブ系と見られる男女2名による「お金見せて詐欺」と一般的に呼ばれている手口による事案が報告されていますが、同年10月にもバリ島ジンバラン地区において同様の事案が報告されています。当該男女の特徴は、当該男女の特徴は、男性は30歳代、身長170cm位、女性は30歳代前半、身長170cm位、香水が強く鼻にピアスをしているというものです。見知らぬ者から突如声を掛けられたり唐突な依頼をされたりした場合は十分注意し、相手方の言動等に惑わされることなくその場から離れるなどしてください。

○ クタ地区におけるスリ・ひったくりが依然として発生しています。また、クタ海岸で置き引きや車上ねらいといった事案も報告されています。外出中や使用車両から離れる際は、貴重品の管理に注意し、徒歩での移動の場合には周囲に十分警戒してください。

(2) 邦人被害事案

邦人に対する一般犯罪の事例については、月ごとに安全対策情報として総領事館ホームページに掲載しています。

4 テロ・爆弾事件発生状況

当館館内においてテロ・爆弾事件は発生していません。

5 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害の誘拐・脅迫事件は発生していません。

6 対日感情

対日感情は基本的に良好であり、特段の変化は見られません。

7 日本企業の安全に関わる諸問題

日系企業の安全に関わる問題は認知していません。

以上